

## 【研究概要】

乳癌発見のきっかけとなる症状の9割以上は乳房内の腫瘍触知であるが、腫瘍を触知しないで見つかる乳癌も5~10パーセント存在し、この段階で発見されれば組織学的に非浸潤癌の率が高く、臨床的にその発見の意義は大きい。乳頭異常分泌の通常診断法と分泌中に特異的に発現してくる遺伝子変異をみることを多施設共同で前向き試験として解析。早期発見・治療を行うためにもバイオマーカーの探索を検討する。